

# 【 研究の構想図 】

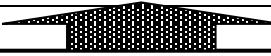
## 本校の教育目標

### 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる久米っ子の育成

自ら学び、自ら考え行動する子ども

思いやりがあり、助け合う子ども

自分の可能性に挑戦する、元気な子ども



## 【研究主題】

### 確かな学力を身につけ、生き生きと学ぶ児童の育成

～児童一人一人が自分（達）で解決に向かう授業を目指して～



## めざす子どもの姿

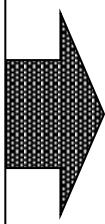
○一人一人が、自ら課題に取り組み、主体的に問題解決に取り組める児童

○自分（達）で協働的に課題を解決するスキルを身に付けた児童

### <他の活動との関連>

○日常的な指導

- ・表現の場の設定
  - ・話の聞き方
  - ・発表の仕方
  - ・ペア・グループ学習
  - ・机上の整理
  - ・声のものさし
  - ・ふり返りの視点
- 言語環境
- ・教師の言葉かけ
  - ・図書コーナー
  - ・掲示の工夫



仮説（1）  
少人数の学級や複式学級において、授業者が児童の実態を的確に把握して、一人学びに入るまでの指示や発問を工夫すれば、児童は学習の見通しを持ち、主体的に学習に取り組むことができるであろう。

仮説（2）  
問題解決の手順や話し合いの仕方など、「学び方」の指導を行い、自己の学びをふり返る活動を設定すれば、自主的・自立的に学ぶ力を身に付けることができるだろう。

### <家庭・地域との連携・協働>

○家庭学習の習慣化

- ・課題の提示
  - ・自主学習
  - ・家庭音読
  - ・家庭学習のマネジメント
- 読み聞かせボランティアの活用
- 多様な他者との対話活動の設定
- 発表の場の設定

### 視点1 児童一人一人が「分かった」「できるようになった」と思える授業づくりの工夫

- (1) 単元デザインの視覚化・意識化
- (2) スムーズに一人学びに入るための発問指示
- (3) 自分（達）で学習を進めていく「学習リーダー」の育成
- (4) 単元終了時の振り返り

### 視点2 児童一人一人の学びをスキルアップさせる工夫

- (1) 対話力を高める「5ラインズ」の系統的な指導
- (2) ノートやICT機器の効果的な活用
- (3) 「読み・書き・計算」ドリル学習への意欲付け

## 児童の実態

- ・児童数が少ないため、クラス替えがなく、お互いのことをある程度知っている状態で学年が上がっていく。そのため、多角的・多面的な考えに触れる機会が少ない。
- ・学習意欲や学力の個人差が広がっている傾向にある。